

### Ⅲ 教職員の資質・指導力の向上を図る教員研修

#### 1. 教職員の資質・指導力の向上を図る教員研修

教育公務員特例法第21条を引用するまでもなく、教育公務員の研修は、「その職責を遂行するため」に行なうものであり、教職員の資質・指導力の向上を図る点において、重要な意義を持つ。ただ、資質・指導力の向上を図る教員研修と一口に言っても、サービスや危機管理に関する研修や児童生徒の心を理解する研修、高度情報化時代に対応する研修、マネージメントやコーチングというような民間企業の発想を取り入れた研修など、多岐にわたる研修が実施されているのが現状である。

今回、プロジェクト研究では特に、ICTを活用した新たな形態の研修と、研修の効果を実感できるような、心理学的方法を用いた演習中心の研修について研究を行なった。前者では、従来の集合型研修の一部、特に知的理解に関する部分でeラーニングを利用して研修する方法を採ることにより、自分の都合の良い時間に居ながらにして自主研修を進めることができる。また、テレビ会議システムを利用することにより、県立学校及び各教育振興事務所で、総合教育センターで研修するのと同様に、講演を聴き、質疑応答ができる。さらに、教育用コンテンツを参考に教材研究や実践事例の研究をすることもできる。主として「知的な面での研修」に関して、ICTの効率性と機能性を有効に活用することを研究してきたのである。ここには、飛騨地区や東濃地区からの移動時間や旅費の削減、児童生徒の学習を考慮すると学校を離れて研修することが難しいという現場の実態が背景にある。

心理学的方法を用いた研修とは、グループエンカウンター的手法やカウンセリングの手法を用いて、児童生徒同士や教師と児童生徒との人間関係

を深める研修である。例えば、WAI法やエゴグラムを利用して、資質向上のために必要な自己理解を促す研修が挙げられる。また、生徒指導上の問題を想定し役割演技することによって、その解決の方策や対応の失敗事例を学ぶ研修が挙げられる。特に、今回、校内研修の一助となることを願って、研修用資料を添付した。

近年話題になっている「教育相談」や「児童生徒理解」などの人間関係に関する研修や多感な児童生徒を対象とする「教科指導法」や「生徒指導」に関しては、集合型の研修で実践交流をすることの意義は大きい。教育の本質が「教員と児童生徒との人格的なふれあいにあること」を考えると、ICTによる研修と共に、人間関係を基盤とした教科指導や生徒指導等への研修の重要性は、今後ますます高まってくると考えている。

#### 2. ICTを活用した教員研修の展開

前述した「21世紀『岐阜県型』情報教育推進プロジェクト」では、戦略的に学校の情報環境の整備を実施してきたが、これと同時に教員研修をICT環境の上でいかに効率的・効果的に展開するのか検討を進めてきた。研修にかかる費用や教育現場の時間的なゆとりの確保が困難な状況の中で、多様化する研修ニーズに応えながら教員の研修機会をいかに設定し、指導力の向上を図るのが最大の焦点である。ここでは、教員の研修に関わってこれまで実施してきたICTの導入及び展開について紹介する。

##### (1) 研修申込手続きのシステム化

全国に先駆けて平成10年度から試行的に実施してきたインターネットを使った研修申込は、膨大な書類の動きを電子化することによって、年度

当初の多忙な時期に各教育振興事務所及び市町村教育委員会等に大きな負担をかけていた業務を軽減することに成功した。

研修申込システムは、県内の学校の申込担当者がインターネットを通じて学校番号、研修講座番号、職員番号等の必要最小限の情報を入力することによって講座の申込を行い、総合教育センター側では受け付けた申込データから研修者を確定し、その結果を教育振興事務所を通じて管轄市町村の教育委員会に通知する仕組みである。基本研修以外で応募の少ない専門研修などは、ある一定の期間内で随時募集（2次募集）が可能になっている。

平成13年度には研修申込システムの約50%をアウトソースし、試行段階ではたいへん煩雑であったデータのバックアップ体制や、繁忙期の誤動作への対応等の運用業務を定型化することができ、安定稼働するシステムに改善した。試行当初にあった学校現場のとまどいも情報環境の充実や操作性の向上を進めてきたことによって少なくなり、ほぼ成熟した仕組みになりつつある。

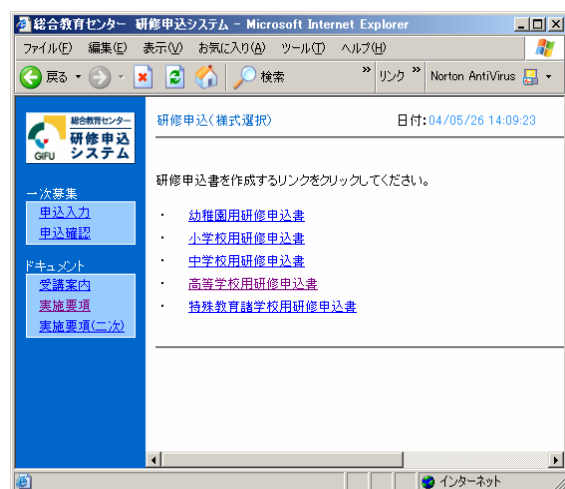


図3-1 研修申込画面

また、全ての研修講座の実施要項を統一書式でWebに公開している点も、研修の申込みをする際に大きく寄与している。

今後は、実施している研修講座の内容をより分かりやすく効果的に提供できる仕組み作りが必要と考えている。

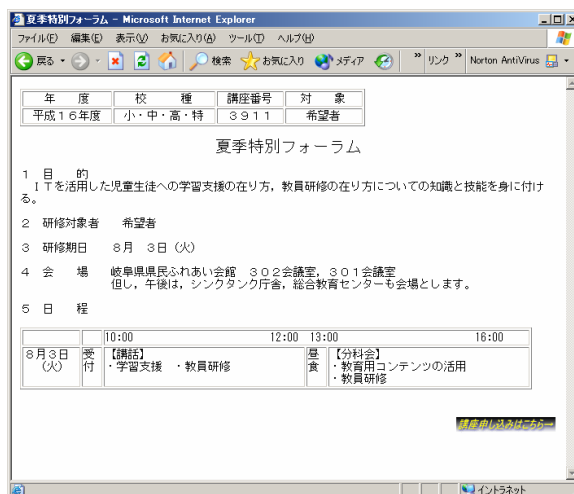


図3-2 研修実施要項

## (2) TV会議システムを活用した研修

学校間総合ネットを県知事部局の基盤整備部で所管されている光ファイバーによる高速情報通信ネットワーク『岐阜情報スーパーハイウェイ』上で形成したことにより、非常に画像と音声の品質が良いTV会議システムを全ての県立学校及び教育振興事務所等で使用できるようになった。特に基本研修では、これまで総合教育センター1箇所県内全ての研修者が集まっていたが、平成15年度からはTVシステムを積極的に活用し、県域ごとに会場を分けて開催する分散型来所研修という形態をとっている。



写真3-1 平成14年度の初任者研修の様子

## (3) eラーニング手法による教員研修の実践

平成14年度の文部科学省からの研究指定『eラーニングの手法による自主研修カリキュラム

等の開発』を受け、本格的なeラーニングシステムの開発に着手した。本県で言うeラーニングシステムは学習管理システム(LMS)を中核として学習プログラムを進めるシステムのことを指している。

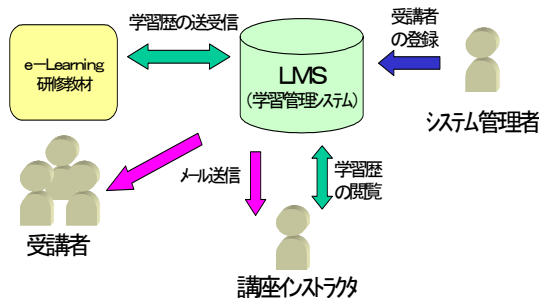


図3-3 eラーニングシステムの概要

### ① 開発の趣旨

研修講座をeラーニング化するにあたり、eラーニングが持つ特性と言える学習者個人の目的や能力に対応し、主体的な学習を支援する。という観点から、開発の趣旨を次のように定義している。

多様化している研修ニーズのうち、教員の自主的・自発的な研修活動を奨励・支援する観点から、教員が自分の不得意分野・スキル等を補い、得意とする分野をさらに伸ばすことを可能にする。

さらに、教員から見た自主的な研修のモデルを考案し、システムの開発を行った。

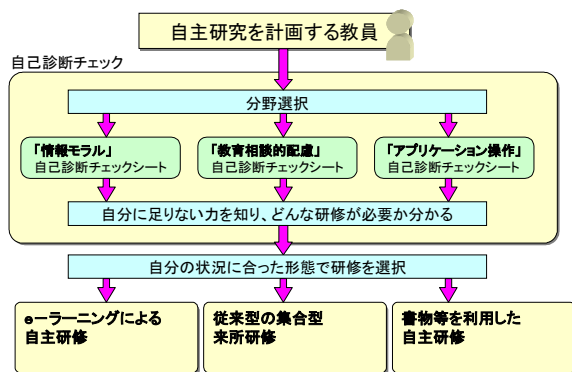


図3-4 自主的な研修のモデル

### ② 開発の手順

開発は次の手順で実施した。

- ・ 県内の教員700名以上を対象にした自主的な研修についての実態調査の実施
- ・ 自己診断チェックシートの開発
- ・ LMSの開発
- ・ ニーズの多い研修コースの開発

### ③ 自己診断チェックシート

eラーニング、集合型研修といった研修形態にかかわらず、自主的な研修計画を支援するための材料として、自己診断チェックシートをWeb上から実施できるシステムとして開発した。学校間総合ネットに接続している学校からいつでも自己診断することができる。(図3-5)

教員は診断結果から、研修の必要性を認識した上で研修に申し込むことが理想である。

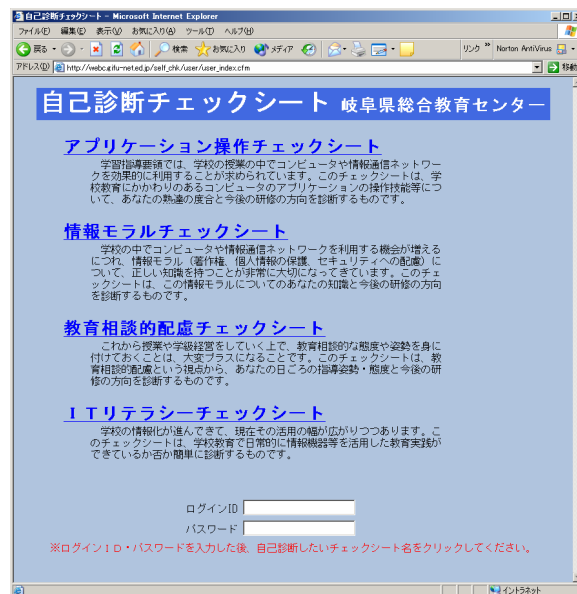


図3-5 自己診断チェックシート

### ④ コンテンツ開発

eラーニングの実施方式は、WB T (Web Based Training) とCB T (Computer Based Training) の2つに大別されるが、一般的に前者はインターネットブラウザを窓口にした研修であり、後者は専用のソフトウェアを窓口にした研修

を指すことが多い。開発当時、WBT方式の場合に、音声、動画、3次元グラフィックスなどの表現に若干の制約があったため、CBT方式(図3-6)を採用し、研修者の興味関心を高めるために、図を多くして、音声によるナレーションやアニメーション、練習問題なども取り入れることにした。(図3-7~図3-10)

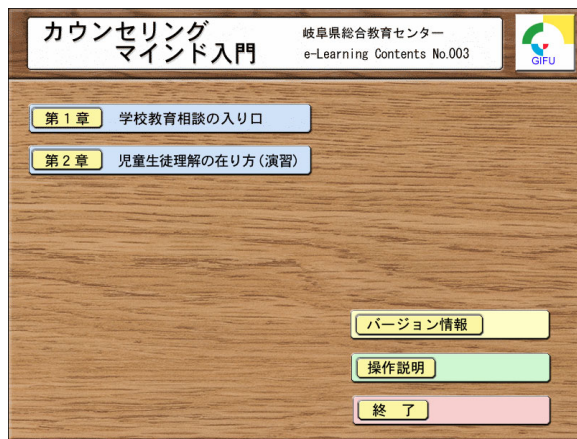


図3-6 専用ソフトによるCBT方式の画面例

なお、LMSについては、WBT方式とCBT方式の両方に対応したシステムを開発しており、Webブラウザの高度化に伴った新しいコンテンツにも対応可能である。

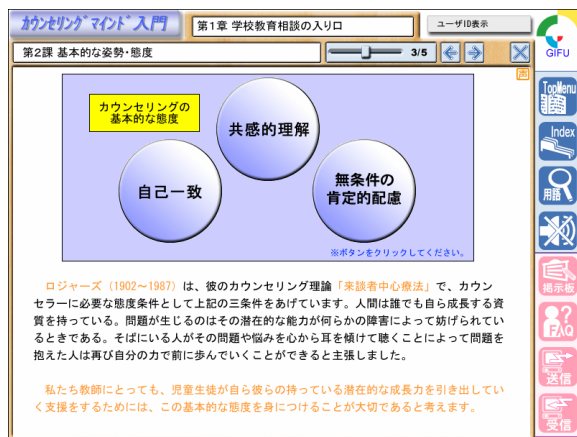


図3-7 クリックに応答する図形(カウンセリングマインド入門より)

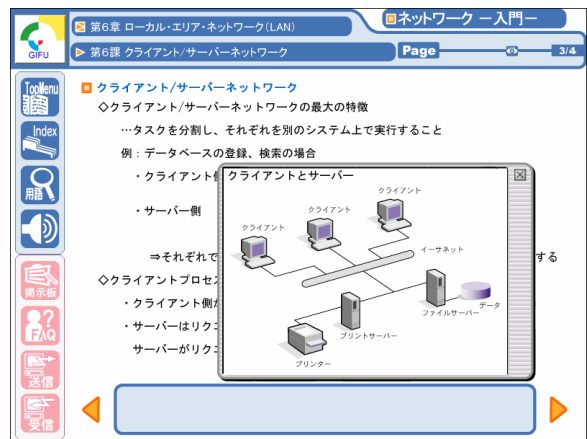


図3-8 図の差し込み(ネットワーク入門より)

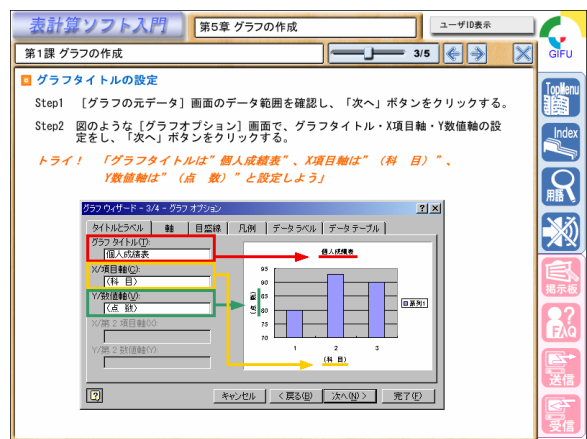


図3-9 分かりやすい図で解説(表計算ソフト入門より)



図3-10 分かりやすい図で解説(情報モラル入門(著作権編)より)

平成14年度に開発したeラーニングコンテンツは、ニーズの多い講座のうちICTのスキル向上だけに偏らないよう次の4つの研修講座とした。

- ・ カウンセリングマインド入門
- ・ 情報モラル入門（著作権編）
- ・ 表計算ソフト入門
- ・ ネットワーク入門

また、開発環境を情報処理研修室に整備されているソフトウェア等で可能なものとした。これによって、国の研究指定終了後もeラーニング用コンテンツの修正が可能になるよう配慮した。

さらに、開発手法の定型化によって、継続的にeラーニングコンテンツの開発が可能になった。所員による自主開発となるため、開発に時間はかかるものの、H15年度には3次元CG入門のeラーニングコンテンツ（図3-11、図3-12）の開発に成功し、H16年度から実施している。

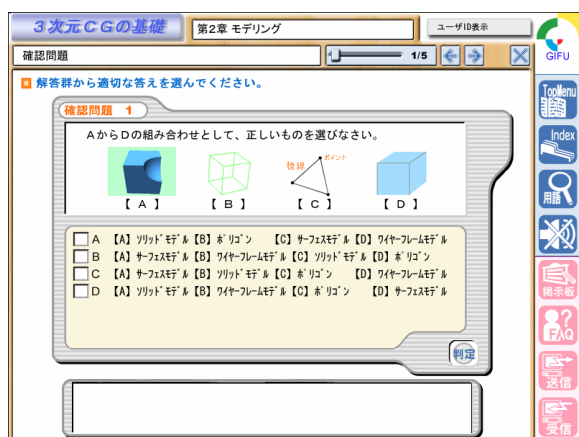


図3-11 練習問題(3次元CGの基礎より)

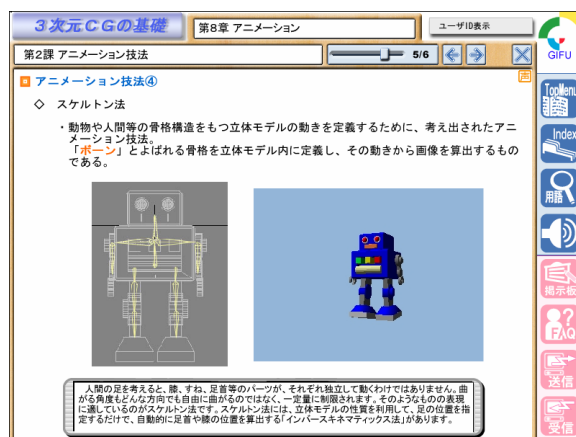


図3-12 アニメーションの例(3次元CGの基礎より)

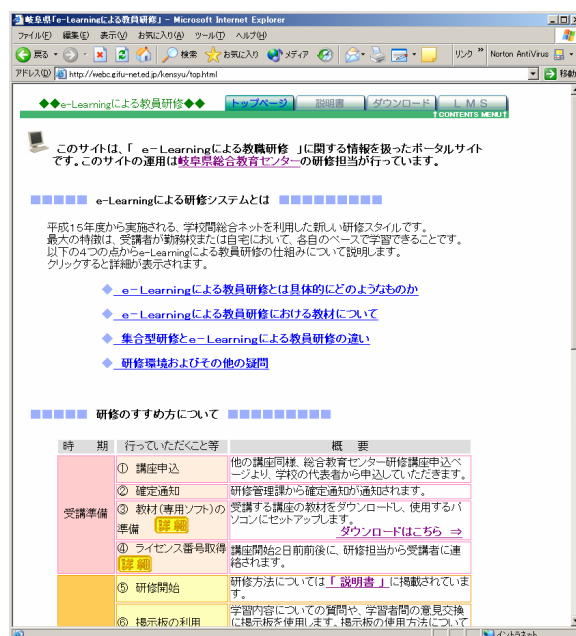


図3-13 eラーニングポータルサイト

### ⑤学習者を支援するポータルサイトの運用

eラーニングを実施するにおいては、ユーザに一元的に情報を提供するため、eラーニングポータルサイト（図3-13）の運用も開始した。

本サイトからは、eラーニングの進め方の記述やC B T用のソフトウェアのダウンロード方法などについて情報を提供している。また、研修の講師が遠隔地に居る場合にも研修者の進捗が把握できるようになっている。

### ⑥研修者の反応

平成15年度に実施したeラーニングによる研修において、終了後の満足度調査の結果は図3-14 のようになった。従来型の研修を受けてきた教員にとっては、主体的に進めなければならないeラーニングによる研修は十分満足できていない状況が見受けられるが、今後学校の情報機器の環境や電子メールの日常化などにより、改善されていることと期待している。

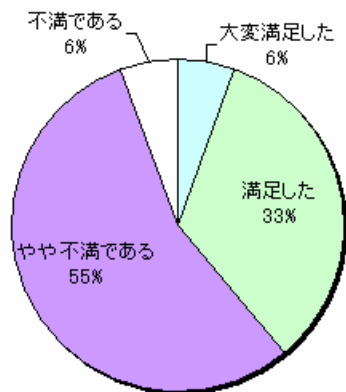


図3-14 eラーニングの手法による研修実施後の満足度

#### (4) アンケート調査システムの構築

研修実施後のアンケート調査についても、遠隔地や、在勤校におけるeラーニングなどの新しい形態の研修に対応するため、従来実施してきたマークシートによるアンケート集計方法に加えて、Web上で研修アンケートに回答できるアンケート集計システムを開発した。

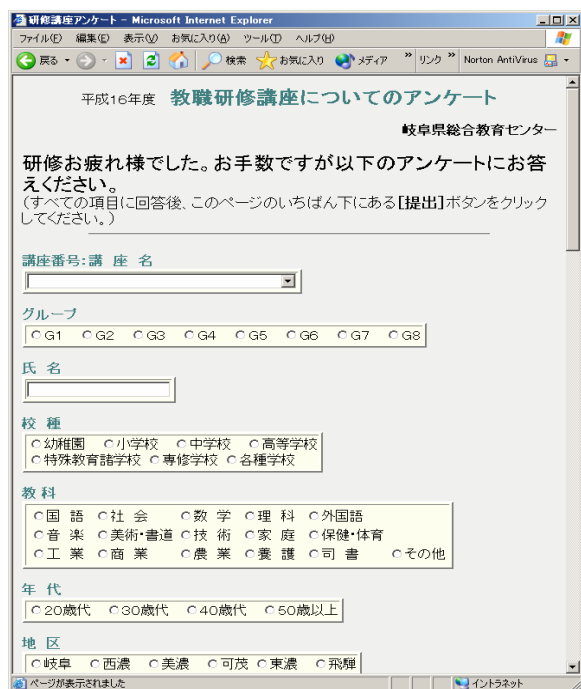


図3-15 アンケート調査システム

#### (5) ICT活用の方向性

図3-16にICTの導入に関わる年次を追った経緯を示す。これまでの教員研修では、各教育分野における知識の獲得は無論のこと、技能を高

める内容や、教育現場における課題解決の手法などの情報交流にも重点を置いて展開してきた。ICTの活用は現在のところ知識習得型の研修や、講話を遠隔地に配信するなどの限定的な面で効果的に活用できると考えている。eラーニングでは、従来型の集合研修と一体になった形態のことをブレンディッド型と呼んでいるが、本県のICT活用の方向性も、実施中の各研修において、費用対効果を検討しながらICTを部分的かつ積極的に導入していくことになるだろう。

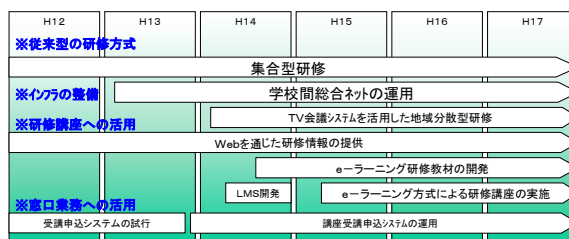


図3-16 ICT導入の経緯

### 3. 教員研修の今後

以上に、教職員の資質・指導力の向上を図る教員研修というテーマで、管理・運用面も含めたICTの活用実績について記述した。岐阜県総合教育センターで実施している講座の概要図を図3-17に示す。教員研修へのICTの導入は、財政面での課題や、現場の教員の時間を確保することをねらいに展開してきた。しかしながら、今日、教員の資質・指導力の向上に対しては県民からの大きな期待がかかっており、教員研修のあり方が多方面から問われていると考えている。今回、プロジェクト研究という位置づけで実施してきた教員研修の新しい手法についてまとめてみたが、今後も新しい手段や効果的な手法を積極的に取り入れながら、教職研修の質的な改善・向上を展開していく。なお、心理学的方法を用いた研修については資料という形で示しておいた。

